



毎は、毒で、𠂔(𠂔 = 𠂔)と母との会意形声字です。

母なる大地の恵みを受けて、“草が生いしげる”という

意味の字です。転じて物事の“重なる”または“重ねる”

意味に使われます。音は母が変化してパイ。呉音はマイです。「毎日」は、“日を重ねる”という意味の言葉です。

梅は、毎と木の形声字で、“ばい”という名の木のことです。わが国の“うめ”のことですが、この“うめ”は、梅の呉音“まい”をそのように受け取ったものです。「ん」を「うん」と発音するように、mei が ume となったものです。

誨は、“重ねる”意味の毎と言との会意形声字で、音は毎が変化してカイ。言葉を重ねて、“ねんごろに教える”という意味の字です。

キョウ、
教誨。誨告。

晦は、草の茂る意味の毎と日との会意形声字で、音は毎が変化してカイ。草に隠れて“くらい”という意味の字です。晦冥。転じて、“月の見えない暗夜”また“つごもり”晦日(みそか)。

海は、晦冥の意味の毎と水との会意形声字です。“海は深くて暗い”

ので「溟」とも言います。「南溟」は「南海」と同義です。

悔は、晦冥の意味の毎と心との会意形声字です。ああ残念なことをしたと、うらめしく思って、“心がくらい”という意味の字です。“くやむ”こと。後悔。悔悟。